

ぴちインフォ <生化学検査>2006・7

疾患の診断や経過観察に行われる血液検査・生化学検査は、服薬治療等による副作用の有無(各種臓器機能障害)を確認する上でも重要な検査です。通常2~3ヶ月に一度行われます。

今回は、“血液検査を受けたけど、測定値の見方が分からない。”という方の為に、生化学検査でよく行われる検査項目について、簡単にご紹介致します。

検査結果に添付されている基準値は、健康成人の95%が示す測定値です(健康な人でも、基準値を外れる人が5%いるという事です)。又、測定方法や検査施設によっても、基準値は微妙に異なります。お手元にある検査結果に記載されていますのでご確認ください。

基準値内かどうかで一喜一憂するのではなく、検査データを総合的に判断する事が大切です。不明な点は医師・薬剤師に積極的に質問して、治療にお役立て下さい。

検査項目	日本語名	検査概要
TP	総タンパク	全身状態の指標で、栄養障害や肝障害等で低値となる
ALB	アルブミン	栄養状態の指標で、肝硬変・ネフローゼ症候群等で低値となる
T-BIL	総ビリルビン	黄疸の指標で、溶血等により高値となる
D-BIL	直接ビリルビン	急性肝炎や総胆管結石等で上昇する
AST(GOT)	トランスアミラーゼ	肝炎・脂肪肝・心筋梗塞・溶血性疾患・筋疾患等で上昇する
ALT(GPT)	“	同上 GPT は GOT に比べ肝障害に特異性が高い
γ-GPT	γグルタミルトランス ペプチダーゼ	閉塞性黄疸や肝障害・飲酒等で上昇する 肥満でも高くなる事がある
LDH	乳酸脱水素酵素	細胞障害(臓器特定困難)や運動・妊娠末期以降でも上昇する
T-CHO	総コレステロール	脂質代謝異常や動脈硬化・ネフローゼ症候群等で上昇する
TG	中性脂肪	脂質代謝異常・脂肪肝・肥満・膵炎・糖尿病・腎障害等で上昇する
HDL-C	HDLコレステロール	善玉コレステロール;低値になると、狭心症や心筋梗塞のリスクが増大する
LDL-C	LDLコレステロール	悪玉コレステロール;高値になると、狭心症や心筋梗塞のリスク増大する
GLU	血糖値(血漿)	糖尿病・肝硬変・クッシング症候群・心筋梗塞等で上昇する
HbA1c	ヘモグロビンA1c (安定型)	糖尿病血糖コントロール指標(6.5%未満);2・3ヶ月前からの平均値で、採血時の食事の有無には影響されない。データは緩やかに変動する
UA	尿酸	痛風・関節炎・痛風腎の指標;7mg/dl 以上は要注意
UN(BUN)	尿素窒素	腎機能の指標で、腎炎・尿毒症・火傷・高熱等で上昇する
CRE	クレアチニン	腎機能の指標で、腎機能低下で血清中の CRE が上昇する
AMY	アミラーゼ	膵臓や唾液腺等に炎症があると上昇する

—親切・便利・安心 お役に立ちますノムラ薬局—

